

20・30代の女性でセクハラ認識度が一番高い

さらにセクハラ認識度の高低と回答者の年齢を比較したところ、女性に関して統計的に意味のある差が見られた。20～30才代の女性ではセクハラ認識度の高い人が非常に多かった。40才以上になるとセクハラ認識度は高い人と低い人はほぼ同数になった。

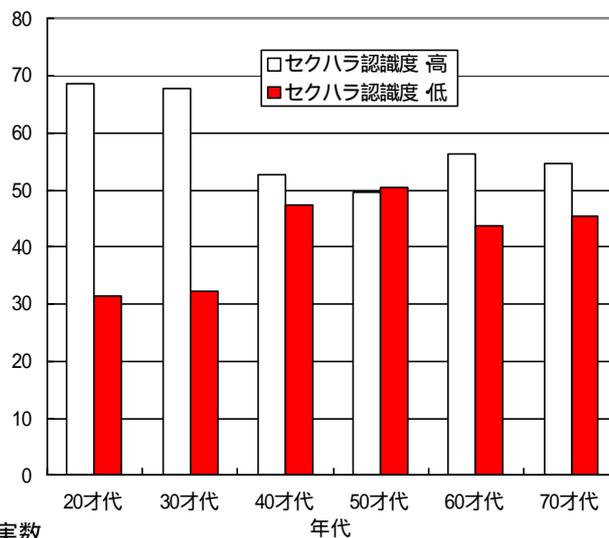
表19 年代別 セクハラ認識度 / 女性の回答

	合計	セクハラ認識度 高	セクハラ認識度 低
合計	581	337	244
	100	58.0	42.0
20才代	70	48	22
	12.1	68.6	31.4
30才代	133	90	43
	22.9	67.7	32.3
40才代	163	86	77
	28.1	52.8	47.2
50才代	107	53	54
	18.4	49.5	50.5
60才代	64	36	28
	11.0	56.3	43.8
70才代	44	24	20
	7.6	54.6	45.5

$\chi^2=13.6$ $p<.05$

上 :実数
下 :%

図19 年代別 セクハラ認識度 / 女性の回答



〔 5 〕メディアへの危機感

ジェンダー・フリー度の高い女性は、メディアにおける性表現に対して危機感をもっていない人が多い

問 28 では、メディアにおける性の表現について聞いた。女性の回答で統計的に意味のある差が見られた。ジェンダー・フリー度の高い女性は、メディアにおける性表現に対して危機感を持っていない人が多かった。反対にジェンダー・フリー度の低い女性は、メディアへの危機感が高かった。

調査前には、ジェンダー・フリー度の高い人の方が、メディアにおける性の商品化（女性の性を人格とは無関係に金銭的に評価可能な「モノ」として扱うこと）に対して敏感だと考えていた。しかし、実際には固定的性役割観へのこだわりのなさゆえにメディアの性表現にも寛容な態度を働かせたと思われる。反対にジェンダー・フリー度の低い女性は、固定的性役割観を逸脱した性表現に対して、敏感だった。

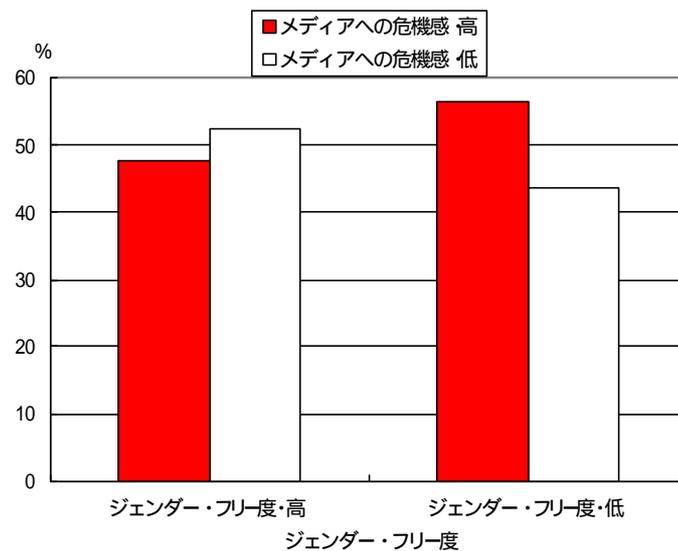
表20 ジェンダー・フリー度の高低とメディアへの危機感 / 女性の回答

	合計	メディアへの危機感・高	メディアへの危機感・低
合計	582	301	281
	100	51.7	48.3
ジェンダー・フリー度・高	311	148	163
	53.4	47.6	52.4
ジェンダー・フリー度・低	271	153	118
	46.6	56.5	43.5

2=4.6 p<.05

上 実数
下 :%

図20 ジェンダー・フリー度の高低とメディアへの危機感 / 女性の回答



〔 6 〕 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

問 19-1 の設問 1~9 で、リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて聞いた。リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは、身体に妊娠・出産のための仕組みが備わっている女性が、女性の健康を考えるうえで、子どもを生み育てるためだけでなく、いつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由など、自らの性について自己決定権をもち、生涯にわたって健康を享受することができる権利のことをいう。

< ジェンダー・フリー度の高低とリプロダクティブ・ヘルス/ライツの関心の高低との比較 >

ジェンダー・フリー度の低い人は、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関心が低かった

ジェンダー・フリー度の高い人では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの関心の高低にそれほど差は見られなかった。一方ジェンダー・フリー度の低い人では、関心の低い人が多かった。

表21 ジェンダー・フリー度の高低とリプロダクティブ・ヘルス/ライツへの関心(女性の回答)

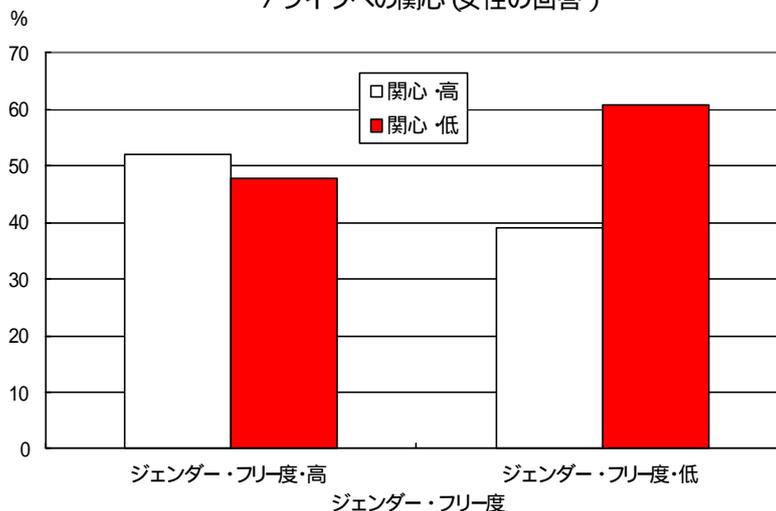
	合計	関心 高	関心 低
合計	582	268	314
	100	46.1	54.0
ジェンダー・フリー度 高	311	162	149
	53.4	52.1	47.9
ジェンダー・フリー度 低	271	106	165
	46.6	39.1	60.9

上 実数
下 %

2=9.8

p<.01

図21 ジェンダー・フリー度の高低とリプロダクティブ・ヘルス/ライツへの関心(女性の回答)



〔 7 〕 行政施策・サービス

（ 1 ） 政治の場や方針決定の女性の参画率に対する態度

固定的性役割観のうち、ひとびとの心の中にはまだまだ家父長制が残っていて、意思決定は男性の仕事という考え方にとらわれている人が多い。そこで政治の場や方針決定にどの程度女性が参画すべきと考えているかについて尋ねた。

「国会議員と三田市議会議員に占める女性の割合（問 21）」「三田市立小中学校の校長・教頭に占める女性の割合（問 22）」「三田市役所職員に占める女性の割合（問 23）」はいずれも女性が過半数を下回っている。この実状を具体的数字で見せ、回答者の態度をたずねた。

< ジェンダー・フリー度と政治の場や方針決定の女性の参画率に対する態度との比較 >

「国会議員と三田市議会議員に占める女性の割合（問 21）」「三田市役所職員に占める女性の割合（問 23）」では、ジェンダー・フリー度の高低との間には統計的に意味のある差は見られなかった。

ジェンダー・フリー度の高い女性は、校長・教頭に占める女性の割合を少なすぎると感じた人が多かった

一方、「三田市立小中学校の校長・教頭に占める女性の割合（問 22）」では女性に関して統計的に意味のある差が見られた。ジェンダー・フリー度が高い人では、三田市立小中学校の校長・教頭に占める女性の割合を「少なすぎる」とした人が際立って多かった。「思ったより多かった」「意見なし」と答えた人ではジェンダー・フリー度の高低で特に差は見られなかった。

表22 ジェンダー・フリー度の高低と三田市立小・中学校の教頭・校長に対する女性の占める割合に対する態度 / 女性の回答

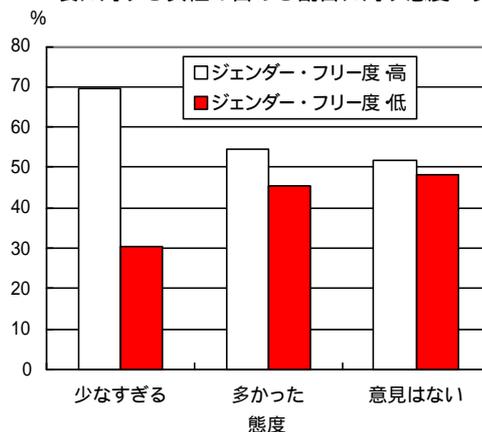
	合計	少なすぎる	多かった	意見なし
合計	569	59	154	356
	100	10.4	27.1	62.6
ジェンダー・フリー度 高	309	41	84	184
	54.3	69.5	54.6	51.7
ジェンダー・フリー度 低	260	18	70	172
	45.7	30.5	45.5	48.3

上 実数
下 :%

2=6.5

p<.05

図22 ジェンダー・フリー度の高低と三田市立小・中の教頭・校長に対する女性の占める割合に対する態度 / 女性の回答



(2) 新たな行政施策とサービスについて

問 24 では「少子化への対応」「学校教育」「働く機会の支援」「女性と子どもの安全を守るための支援」で 15 の施策やサービスについて、新たな負担を引き受けても実施して欲しいかどうかをたずねた。主成分分析の結果、因子数は 1 となった。つまり、測定される現象（15 の施策・サービス選択の仕方）に影響を与えている要因が 1 つであることがわかった。この要因を「新しい行政サービスへの要望」とし、その得点を求め、ジェンダー・フリー度と比較した。

<ジェンダー・フリー度と新しい行政サービスへの要望の高低との比較>

ジェンダー・フリー度の低い人は、行政サービスへの要望が高い

ジェンダー・フリー度の高い人は、新しい行政サービスへの要望の低い人が多かった。

一方ジェンダー・フリー度の低い人は新しい行政サービスへの要望が高かった。この結果から、ジェンダー・フリー度の高い人に比べて、低い人は行政の力に頼る傾向が大きいことがわかった。

表23 ジェンダー・フリー度の高低と新しい行政サービスへの要望

	合計	要望 高	要望 低
合計	1060	536	524
	100	50.6	49.4
ジェンダー・フリー度 高	563	250	313
	53.1	44.4	55.6
ジェンダー・フリー度 低	497	286	211
	46.9	57.6	42.5

上 実数
下 :%

図23 ジェンダー・フリー度の高低と新しい行政サービスへの要望

